

平成 29 年度第 2 回加西市総合教育会議 会議録

- 1 開会日時 平成 29 年 10 月 24 日 (火) 15 時 30 分
- 2 閉会日時 同 日 16 時 45 分
- 3 開催場所 加西市役所 1 階 多目的ホール
- 4 出席委員 市長 西村 和平
教育長 高橋 晴彦
教育長職務代理者 内藤 堯雄
委員 渡邊 隆信
委員 多田 久子
委員 沼澤 郁美
- 5 委員及び傍聴人を除き、会場に出席した者の氏名
理事 須貝 正俊
ふるさと創造部長 森井 和喜
人口増政策課長 藤後 靖
人口増政策課主任 岩野 裕之
教育部長 達可 忠久
教育委員会次長兼課長 内藤 利樹
総合教育センター所長 植田 正吾
- 6 傍聴者 一般：なし、報道機関：なし
- 7 協議事項
(1) 平成 30 年度予算について
(2) 教育における諸課題について (不登校問題)
(3) その他
- 8 会議内容
別紙のとおり

【別紙】

1 開会

2 市長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 協議事項

(1) 平成30年度予算について 事務局より説明

〔意見・質疑〕

委員 学校では教職員の勤務時間の適正化に向け、小学校も中学校も教職員の長時間労働をできるだけ改善するよう進めている。学校は民間企業と同じような取組ができない面が多々あり、教職員も授業が終わってから様々な仕事がある。中学校では部活動等があり、他の教職員も指導や保護者からの電話相談などたくさんの時間を費やしている。

平成30年度予算の説明の中で、教職員の勤務時間の適正化に向けた取組について、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、部活動指導員等の専門スタッフの配置により実際に教職員の負担が軽減されるのか。教職員の数が問題なのではないかお尋ねしたい。

事務局 ご指摘のとおり本質的な改善のためには教職員の定数改善が必要であるが国の法律により定められているため、市単独で追加配置を行うことは難しい。そのため、専門スタッフ等を効率良く配置することにより、精神的な負担の軽減や専門性による業務効率化により、教職員の勤務時間の適正化につながると考える。

市長 教職員の勤務時間管理は行われているのか。

事務局 教職員の勤務時間をシステムで記録している。

市長 慣習的に残業を行わないといけないような雰囲気があるのではないのか。

委員 それはないと思う。授業終了後、若い教職員は自主的に自分の力をつけるため、先輩の教職員への質問・相談や、研究等を行う。その後さらに自分の事務仕事を行っているため、帰りが遅くなる。

事務局 教職員の働き方の改革が大事で、中学校では部活動があるため、教職員の会議等は18時頃から始まることもあり、会議後にやっと自分の仕事を行える状況にある。その状況を改善するため、今年度から中学校では部活動について平日に必ず1日は休みとしている。

市長 そのような学校現場の状況が社会的な共通認識になっていない部分も多く、

批判も多いのではないか。

事務局 できる限りご理解いただけるよう、校長がPTA総会の際に説明を行ったり、ホームページでPRしている。

市長 教育施設の環境整備について、整備箇所の数も金額もボリュームがあり、また、市全体では鶉野ミュージアム等整備推進事業や加西インター周辺地区新産業団地整備事業を計画しているため財政的に厳しい状況ではあるが、教育施設の整備計画を早期に作成していただき、加西市の財政計画と考慮しながら、計画的に改修し、継続して学力向上に向けて取り組んでいきたい。

委員 学校の英語教育について、過去に比べてALTの質がよくなってきており、姉妹都市との提携事業など、環境が充実している。そのような中で教職員がどのように英語指導の質を高めていくかが課題であり、計画的に行う必要がある。また、加西市立図書館について、資料も充実し、イベントも工夫されており、市民だけではなく市外の方からも評判がとても良い。今後より一層の充実を図っていただきたい。

委員 ハード面について、耐震化工事が終了し安全安心な環境づくりができたかと思うが、次の段階の快適な環境づくりとして学校や公民館等のトイレの様式化をお願いしたい。また、ソフト面については教職員の勤務時間の適正化や質の向上にむけて、スクールサポーターや学校サポートチームなど様々な専門的スタッフが採用できるよう財政的なご支援や、学習指導等で力をつけていただけるよう研修や専門的スタッフによる指導等の充実を今後も引き続きお願いしたい。

市長 学校のトイレの様式化についてはほぼ完了しているが、公民館を含めた他の施設等についても課題として認識しており、早期に進めたいと考えている。

委員 充実した予算をご支援いただいていると考えている。学校では読書活動のための本の充実や授業において様々な機器を利用した分かりやすい授業を行っていて、他市に自慢できるような環境となっている。是非、公民館の整備も図っていただきたい。

(2) 教育における諸課題について（不登校問題）

事務局より説明

〔意見・質疑〕

市長 不登校で卒業した生徒達の進路や対策はどのようになっているのか。

事務局 通信制や定時制等、次の進学ができるように学校と総合教育センターが協力してサポートを行っている。また、不登校について最近では心の面だけではなく、家庭環境も影響することが多いため、今年度より市の「学校サポートチーム」

設置による支援や加西市地域福祉課のひきこもり対策事業との連携によって不登校問題について取り組んでいる。

教育長 加西市は他市に比べて中学校卒業後も手厚いサポートを行っている。

委員 学校に来なくなった当初の取組はどのようにしているのか。また、出欠簿がきちんととられているか。丁寧に児童・生徒の心に寄り添いながら指導していかないといけない。学校の教職員だけではなくスクールソーシャルワーカーとも連携して行わなければならないと思う。

事務局 学校に来なくなった当初の働きかけが大事だと認識しており、マニュアルにあるとおり2日連続欠席、3日連続欠席、1週間以上連続欠席とそれぞれのケースについてのフローチャートをまとめ、校内研修を行っている。

委員 資料に適応教室の別室を加西市立図書館にも設置することを検討するとあるが、多様なことを学び経験できることが大事だと思う。学校に行かなくても学習できるような児童・生徒のリズムに合わせた環境をつくってあげればと思う。

委員 他の自治体でも頭を悩ますことであるが、中学校で不登校を経験し、そのまま高校に進学したが、途中で退学してしまった生徒についても、加西市では教職員だけではなくサポートチーム等の支援がつながっている状態であることはとても良いと思う。

(3) その他
特になし

5 閉会